



森林環境教育ネットワークメールマガジン 第190号 (平成30年4月25日)



(目次)

- 1 <林野庁プレスリリースから>  
第28回 森と花の祭典―「みどりの感謝祭」の開催について
- 2 <全国森林レクリエーション協会から>  
フォーラム「森林レクリエーション資源を活用した新たな山村と都市との交流」一般参加者の募集について
- 3 <コラム> 森林環境教育の現場から(131)
- 4 <森林・林業白書から>山村地域における木質バイオマスエネルギー利用の取組
- 5 <樹をとりまくはなし>(11)  
桜の名所はいかにサクラを植えないでおくかが大事なのでは？
- 6 <イベント情報>  
◆企業・行政・各種団体のための 環境教育プログラム体験セミナー  
☆ 事務局から



森林環境教育ネットワーク <http://www.shinrinreku.jp/feenet/index.html>  
 《バックナンバー<http://www.shinrinreku.jp/feenet/php4/mlbk/index.php>》  
 《イベント情報の登録・閲覧 <http://www.shinrinreku.jp/feenet/einfo/>》  
 一般社団法人全国森林レクリエーション協会 <http://www.shinrinreku.jp>



- 
- 1 <林野庁プレスリリースから>  
第28回 森と花の祭典―「みどりの感謝祭」の開催について
- 

4月15日から5月14日は「みどりの月間」です。期間中に実施される各種緑化行事の締めくくりとして、5月12日、13日の両日、第28回森と花の祭典―「みどりの感謝祭」を日比谷公園等において開催します。

本祭典においては、12日に「みどりの感謝祭式典」、12日から13日の2日間にわたり、子供から大人まで楽しめる「みどりとふれあうフェスティバル」を実施いたします。

1 趣旨

森と花の祭典―「みどりの感謝祭」は、森林・樹木・花などの自然とのふれあいを通じてその恩恵に感謝するとともに、健全な青少年の育成や地球温暖化防止に資する緑化運動を推進することを目的としています。

2 開催日時及び場所

日時:平成30年5月12日(土曜日)11時00分から17時00分  
 5月13日(日曜日)10時00分から16時00分  
 会場:日比谷公園 にれのき広場等

所在地:東京都千代田区

### 3 祭典の内容

みどりの感謝祭式典(12日11時00分から11時30分頃)

みどりや森林に関して顕著な功績のあった方に贈られる「みどりの文化賞」の顕彰や地域の環境美化、緑づくりに取り組む皆さんに対する苗木と花の贈呈などを行います。なお、本式典は関係者のみで行います。

みどりとふれあうフェスティバル(12日から13日)

「森の恵みと木の温もりを五感でふれて、癒やされよう」をテーマに、木材関係団体や森づくり活動に取り組む団体、木づかい運動の応援企業、環境問題や生物多様性に関心の高い企業などによる100を超える「森で遊ぶ」「森で学ぶ」「森での健康づくり」などのブースが登場し、以下のような子供から大人まで楽しめるプログラムを実施します。

- ・木のクラフト、きのこ・山菜、ジビエ料理などの販売

- ・移動版フォレストアドベンチャー、ツリークライミング、森のヨガ、森の幼稚園プチ体験などの体験プログラム

- ・くまモン、ぐんまちゃんなどゆるキャラとのクイズ大会や東京消防庁音楽隊による演奏などのステージプログラム

- ・森づくり活動、木づかい運動などの紹介 等

### 4 主催

農林水産省・林野庁、東京都、公益社団法人国土緑化推進機構、一般財団法人日本緑化センター、一般財団法人日本森林林業振興会、東京緑化推進委員会

### 5 後援

内閣府、文部科学省、国土交通省、環境省、全国知事会、NHK、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本新聞協会、美しい森林づくり全国推進会議、健康保険組合連合会、全国健康保険協会

### 6 その他

詳しくは、みどりの感謝祭ホームページを御覧ください。

みどりの感謝祭ホームページ(<http://midorinokanshasai.com/>)

---

## 2 <全国森林レクリエーション協会から>

フォーラム「森林レクリエーション資源を活用した新たな山村と都市との交流」一般参加者の募集について

---

全国森林レクリエーション協会では、平成30年5月31日(木)、東京都文京区の文京区民センターにおいて、森林レクリエーション資源を活用した新たな山村と都市との交流の事例発表と事例発表者をパネラーとするパネルディスカッションのフォーラムを開催します。フォーラムへの一般参加者を募集します。

### 1 趣旨

近年、「モノ消費からコト消費へ」と言われるように、旅行先等で一連の体験を消費するいわゆる着地型観光の人气が高まっています。保健休養・レクリエーションの場の提供という森林の有する機能を活用した森林レクリエーションは、まさに体験型のアクティビティであり、これを通じた山村と都市との交流が期待されています。このような状況の

中で、従来型の森林の活用とは異なった森林レクリエーションに関心が集まってきており、地域の観光資源として注目され始めています。

本フォーラムでは、このような先進的な事例を紹介するとともに、森林レクリエーションを核とした山村と都市の交流プログラムへと発展していくための課題を検討します。

## 2 開催日及び会場

(1)開催日:平成 30 年 5 月 31 日

(2)時間:午後 2 時～午後 5 時 30 分(受付:午後 1 時 30 分)

(3)会場:文京区民センター(東京都文京区本郷 4-15-14)3 階 3-A 会議室

(4)アクセス:東京メトロ丸の内線後楽園駅4B 出口徒歩 5 分

東京メトロ南北線後楽園駅6出口徒歩 5 分

都営三田線大江戸線春日駅 A2 出口徒歩 0 分

## 3 主催

(一社)全国森林レクリエーション協会

## 4 応募方法

参加希望の方は、FAX 又はメールにより①お名前、②所属、③電話番号、④メールアドレスを記入の上、FAX 又はメールでお申し込みください。

定員に達ししだい締切らせていただきます。(定員150名)

FAX:03-5840-7472 E-mail:info@shinrinreku.jp

## 5 プログラム

13:30 受付

14:00 開会

14:15 事例発表

木村 正臣 氏(野反湖うらやまガイド)

千葉 達雄 氏((株)ソトエ代表取締役プロデューサー)

坂崎 絢子 氏(滝ガール・滝文化ライター)

内田 有映 氏

(アソビュー(株)地域戦略室室長兼シニアコンサルタント)

外山 京太郎 氏(群馬県川場村村長)

16:35 パネルディスカッション

コーディネーター 宮林 茂幸 氏(東京農業大学教授)

## 6 その他

このフォーラムは(公社)国土緑化推進機構の「緑と水の森林ファンド」の支援を受けて実施します。

## 7 詳細については、次の URL の WEB をご覧ください。

URL:[http://www.shinrinreku.jp/information/29\\_index\\_detail.html](http://www.shinrinreku.jp/information/29_index_detail.html)

地域の子ども会主催で、名寄市の郊外の小学校の子どもたちと、朱鞠内湖にワカサギ釣りに行きました。3月の半ばですが、氷の厚さは2m！厳寒の厳しさがわかります。氷の穴に釣り糸を垂らしての穴釣りは、集中力を引き出し、子どもたちは真剣に竿の動きを見えています。回遊するワカサギは、時間差があるもののどの穴でも釣果は最終的に同じになり、子どもたちも満足顔でした。この小学校の地域の子ども会は、地域の大人たちが神社山のお祭りや、名寄川のいかだ下りなど、たくさんの楽しいイベントを開催し、地域が好きになる環境教育を行っています。と言っても、地域に住んでいる子どもはわずか4名、あとの15名は校区外から通ってきます。つまり、「地域の子ども＝小学校の児童」という考えで地域が学校を支えているのです。環境教育はこのように地域が盛り上げていくことが大切で自分も頑張らなくてはと感じたイベントでした。

(森林インストラクター 柳原 高文)

---

#### 4 <森林・林業白書から> 山村地域における木質バイオマスエネルギー利用の取組

---

群馬県多野郡上野村は、木質バイオマスエネルギーの地産地消に取り組んでおり、村内の森林整備により伐採・搬出した木材のうち製材用として利用できない曲がり材・小径材を村内の工場でペレットに加工しており、年間 1,600トン生産している。これらのペレットについては、村内でボイラーやストーブの燃料として利用するとともに、木質バイオマス発電にも利用している。

平成 27(2015)年から稼働している同村の木質バイオマス発電施設は、エネルギーの利用効率が高い熱電併給システムであり、発電出力 180kW、熱出力 270kW、ペレット使用量約 930 トン/年の小型のもので、村内で調達できる木材の量を考慮したものとなっている。

また、木質バイオマス発電施設にはきのこセンターが併設されている。きのこ生産に当たっては、同発電施設から供給される電力と冷暖房用の熱が利用されている。このきのこ生産により約 60 名の雇用を確保するなど、木質バイオマスエネルギーの地産地消の取組全体で約 150 名の雇用が創出されている。

(平成28年度森林・林業白書 事例から)

---

#### 5 <樹をとりまくはなし>(11)

桜の名所はいかにサクラを植えないでおくかが大事なのでは？

---

新潟のサクラの名所、高田公園に講座で行きました。高田の人たちはとても樹木愛・サクラ愛があり、なんだかあんまりサクラ愛がない私が講座するのは恐縮しました。以前「ソメイヨシノは AKB みたい」と言ったら、樹木医仲間に「違う！ソメイヨシノは美空ひばりだあー」とひどく怒られました。でもサクラを好きすぎないから、逆に気がつきました。サクラは連作が難しいので、公園全体をサクラ一色にしてしまうと、いつか立ち行かなくなるんじゃないか？いかにサクラを植えないエリアをキープできるかが大事なんではないかと。サクラをローテーションさせていくのが長く桜の名所として生きる方法かもしれないと思いました。一度サクラを植えた場所にサクラを植えると成長がよくなく、

一度も桜を植えてない場所に植えるととても成長がいいようです。桜の後に無理に桜を植えるのは病害虫も増え、お金や手間がかかるでしょう。無理のない管理を目指したほうがいいですよ。私は桜より地味な子(木)押しですけどね。

(森林インストラクター・樹木医 岩谷 美苗)

---

## 6 <イベント情報>

### ◆企業・行政・各種団体のための 環境教育プログラム体験セミナー

---

### ◆企業・行政・各種団体のための 環境教育プログラム体験セミナー ～地域・協働・SDGs「×教育」「×場作り」の可能性～

◇講師：増田 直広(ますだ なおひろ)

<公益財団法人キープ協会環境教育事業部 主席研究員>

鳥屋尾 健(とやお たけし)

<公益財団法人キープ協会環境教育事業部 事業部長>

(公財)キープ協会は、様々な企業・行政・各種団体と協働し、社会に価値を生み出してきました。そのジャンルは、環境、国際、健康、保育、エネルギー、生物多様性、次世代教育と多岐にわたります。いずれの事例も、自然を活かした場づくりの力、教育の力がそこにあります。様々な社会課題が複雑にからみあう中、多くのセクターの協働が必要です。

本セミナーでは、企業・行政・各種団体の様々な立場の中で、森林環境教育、人材育成、社会貢献、健康福祉等の分野で、課題解決へむけた知恵と技を共有したいと考えています。

キープ協会は、その力を広く社会の中に活かしたいと考えています。

初夏の気持ちいい清里高原で、心と身体にたっぷり深呼吸しにきてください。

お待ちしております。

### ●キープ協会の各種協働事例

- ・群馬県緑のインタープリター養成事業
- ・NEC世界子ども自然クラブ
- ・サントリー水育 森と水の学校・白州校
- ・北杜市幼児環境教育プログラムプログラム開発及び実施
- ・地球温暖化防止 地域協働ツール開発
- ・JICA持続可能な開発のための環境教育 研修
- ・環境省、文部科学省「環境教育リーダー研修基礎講座・関東ブロック」
- ・日本アムウェイ合同会社「清里”心の森”プロジェクト」
- ・自分にできる環境教育×国際協力を考える清里ユースミーティング

### ●キープ協会の各種実績はこちらをご覧ください

URL：<http://www.keep.or.jp/about/kankyo/result.php>

### ●スケジュール予定

